

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 空へ		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和7年 4月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和7年 4月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の平均年齢が若く児童と全力で一緒に遊び、関わり、学び合いができることである。	児童の「やりたい」や「やってみたい」を大切にしている	将来（先）を見据えて、「経験・体験」を多く積んでいけるように幅広い学びを大切にしていく。
2	職員の専門性が高い	職員の得意を児童へ多くの体験や経験・学びが深められる	児童へ更なる興味関心を広げるために研修や専門性の学びの機会を充実していく。
3	児童の成長を何より願い、考え一緒に悩み、解決することができる。	職員ミーティング等で児童の話を共有する時間を大切にしている。	今後も児童の様子等を共有することで起きている課題に対してどうアプローチしていけるか、児童の最善の利益を大切にして成長を育んでいきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援への取り組み	ともに考え成長を望んでいくことができるよう働きかけているが、同じベクトルへ向けることが難しい。	引き続き、保護者との信頼関係の構築や同じ課題を共有することができる保護者会の開催を引き続き計画していく。そこで、参加を促し同じ悩みを共有していく場の提供を行う。
2	地域の中で他の子供と活動する機会	日々の活動で行うべきことややりたいことへの時間を作ることが最優先。地域移行としてのきっかけ作りで野外活動で近隣公園へ出向いて他の児童との関われる時間を作っているが、交流する機会を作ることが難しい。	地域でのイベント参加を大切に地域での奉仕活動から始めていく。そこで、地域との交流から始めて近隣にある学童や保育所との交流する機会を作っていきたい。
3	保護者会への参加率について	事業所が閉所している祝日等に保護者の休日に合わせて保護者会の開催を行なったが参加が少ない。多くの台数を駐車できる公民館や自治会等での開催が必要ではないか。	児童主体で運営するカフェの開催が評判よく参加率も高かった。今後も保護者会としてではなく懇親会として気軽に兄弟時も来やすい開催の運営企画を行なっていく。